

令和4年度 学校自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立白子中学校					NO. 1		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	R2実績	R3実績	R4現状	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
成果指標	◇ できる・わかる喜びを感じている生徒の割合(学校ア) ◇ 学校の授業が楽しいと感じている生徒の割合(学校ア) ◇ 毎日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合(学校ア)	81.4% 77.3% 57.2%	87.5% 77.6% 47.7%	82.3% 74.5% 58.2%	【総括】 ○継続して取り組んできた人権教育の成果によって、校内の雰囲気安定してきているとともに、学力の向上も見られる。 今後、これまで継続してきた人権教育の取組を大切にしながら、授業づくりや授業改善等を組織的に行うことで、生徒のさらなる学力向上を目指す。 ○校内研修や教科部会を充実させ、ICTを活用した授業や課題づくりに取り組んでいく。また、家庭学習の定着にもつなげていく。		
教科部会を活用した授業改善	・授業の工夫、改善を組織的に行っていると考えている教師の割合(鳴門ア)	92.5%	95.3%	92.7%	○各教科とも、組織的な授業の工夫・改善が継続的に進められ、一定の成果をあげている。 △新しい教育の流れに対応できるように日々、授業方法の情報収集や研修を進め、各教科の授業をアップデートする。	・「できる」、「できた」と思わせるような指導方法を取り入れる。 ・新しい教育とは、各自(生徒や家庭)が理解できているのか。 ・工夫・改善が継続されて、成果が上がっていることがよい。 ・授業の工夫や改善など、学校の取組を評価する。 ・「わかる」授業にするため、今後も取り組んでほしい。	・各教科での、授業の「ふりかえり」の習慣化と単元テストの定期化に取り組むため、年度当初に校内研修や教科部会等において共通理解を図る。
	・学校の授業がわかりやすいと感じている生徒の割合(学校ア)	81.4%	86.0%	84.8%			
学びあいの場の設定	・グループ活動など仲間と課題解決に取り組む機会を作っている教師の割合(学校ア)	82.3%	84.2%	82.0%	○各教科とも、授業の中で学び合いの場の設定が定着し、わかる授業の取組が着実に進められ、一定の成果をあげている。 △「聞く」だけでなく、生徒の交流の中で、自らの考えを深め合う「対話的で深い学び」へと、現在の取組をさらに深めていく。	・生徒同士の話し合いにより、お互いの向上を図る。 ・対話の中から学ぶことは大切なこと。その中から自分を見つめ直すことになると考える。 ・対話することで学びが深まる授業を続けること成果が認められるところを評価したい。	・各教科において、一つの単元内で1回以上のグループ活動を取り入れる。 ・人権、道徳、総合の時間については、グループによる対話的活動を取り入れる。
	・授業でわからないことを、友だちに聞くことができる生徒の割合(鳴門ア)	90.6%	93.5%	90.5%			
視覚支援を生かした授業	・授業内容を理解しているか、気を配りながら授業を進めている教師の割合(学校ア)	96.0%	97.4%	89.6%	○クロームブックの活用により、資料の提示や実際に動かしてみよう活動を取り入れるなど、視覚的な支援ができた。 △ICT機器の活用にも悩む教員もいるので、引き続き研修や公開授業を行うことで、活用方法等を共有していく。	・端末を授業に活用することはよいことである。 ・どうすれば生徒自身が理解していくか、そのポイントを先生方が教えることが必要である。 ・活用方法への取組が評価できる。 ・今後、家庭での端末の活用も進めていってほしい。	・端末の活用方法については、今後も研修を進めていく。 ・1時間の授業で何を学んだかをわかるような資料や板書づくりに努める。
	・先生が、わかりやすく授業を工夫してくれていると感じている生徒の割合(鳴門ア)	91.0%	94.6%	94.0%			
校内研修の活性化	・授業公開や研修を通して、教職員の資質向上が進んでいると考える教師の割合(学校ア)	86.6%	90.7%	91.8%	○校内研修等において、講師や助言者に指導・助言いただくことにより、自分の指導や取組等見つめ直す機会となった。 △プチ公開を行い、他の教員の授業を参観する機会をつくった。しかし、空き時間も忙しく、参観できなかった教員もいた。	・大事なことだと思いうで、今後も継続して欲しい。 ・忙しい中、授業の質を高めることを目指しているところが評価できる。 ・教師としての資質向上のため、研修や授業参観などの取組がなされていることを評価する。	・教員が主体的に取り組めるような研修を企画、運営していく。 ・他の部会等とも連携して、本校の教員に必要な研修を実施していく。
	・他の教師の授業を気軽に参観できると考えている教師の割合(鳴門ア)	88.7%	100%	90.2%			
学力保障 家庭学習の定着	・よく宿題を出していると考えている教師の割合(学校ア)	34.0%	44.7%	50.0%	○家庭学習の定着のために、宿題を出す等、教員の意識が高まった。今後は家庭の協力について啓発していく。 ○学校運営協議会においても、家庭学習の定着やスクリーンタイムの縮減について熟議がなされ、校区でノーメディアデーの取組を行うことができた。	・家庭学習の習慣化に向けての、保護者・生徒との共通理解や改善等の発信を考えていく。 ・宿題だけでなく、自主学習の指導も必要である。 ・学校からの宿題で、成果を認められ、先生に褒められると自信とともに、やる気につながると思う。 ・学校運営協議会での議論の結果が反映されていてよい。	・ただ宿題を出すのではなく、生徒が自主的に取り組む宿題を出していく。 ・家庭学習の定着やスクリーンタイムの縮減の取組について、保護者への発信と啓発を今後も進めていく。
	・学校の授業で、よく宿題が出されると感じている生徒の割合(学校ア)	54.6%	61.2%	70.6%			
主体的な学習の喚起	・学習課題に意欲的に取り組めるよう、指導の工夫を行っている教師の割合(鳴門ア)	100%	100%	97.5%	○定例の教科部会を活用して、日々の教材研究や授業づくりに取り組むことができた。 △安心して意見ができる雰囲気づくりが今後の課題の一つである。エンカウンター等を取り入れて、生徒同士をつなげることで、安心できる集団づくりを行っていく。	・教師を含め、生徒間のコミュニケーションを充実させていく。 ・先生方の熱心な取組や、わかりやすく工夫する等の思いが充分伝えられている。また、気軽に質問したい生徒に対応できるよう、先生方の時間的余裕があれば良いと思う。 ・安心して自分の意見が言える、クラスや学年の雰囲気をつくってほしい。	・人権学習をはじめ、学級活動や学校行事、日々の生活の中など、様々な活動場面において関係づくりに努め、安心して自分の意見が言える環境をつくっていく。
	・授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている生徒の割合(鳴門ア)	70.1%	52.3%	46.5%			
図書室の利用促進	・学校が読書習慣の大切さを指導していると捉えている保護者の割合(鳴門ア)	74.2%	74.1%	68.0%	○朝読書の取組や生徒の興味・関心にあった選書、図書室の環境整備等により、貸出冊数が増加した。 △ICTの充実普及により、生徒の読書への意欲が低下している状況がある。授業での図書室活用も行っていきたい。	・読書とSNSとの比較など、読書の重要性を理解させる。 ・読書の好き嫌いも含めてどのように指導するかが大切である。また、生徒の図書室の利用状況を分析する。 ・読書に対する取組が、貸出冊数に反映されていて良い。 ・貸出冊数が増えていることを評価する。	・生徒が読書への興味・関心が高まるよう、図書のディスプレイや図書だよりの発行、多読賞など、取り組んでいく。 ・授業での図書室活用に取り組む。
	・学校図書館での一人当たりの年間貸出冊数	1.57冊	1.27冊	2.80冊			
学力向上スタンダードの検討	・学習規律の定着に配慮している教師の割合(鳴門ア)	100%	95.2%	97.4%	○研修部会で作成した「白子中学校・授業の受け方」をシラバスに掲載し、生徒及び保護者に配布するとともに、教員も同じ方向で指導ができるよう共通理解を図った。 △指導内容によっては、教員間での意識の差が見られる。今後も、研修や教科部会など、共通理解を図っていく。	・教職員の意識に対する標準化を図る。 ・学習規律、忘れ物等は家庭と連携して進めることが大事。ポイントは何かを全員で考える。 ・教員の育成にも、もっと時間をかけるべきである。 ・教員間の共通理解を図っていることを評価する。	・次年度も「白子中学校・授業の受け方」をシラバスに掲載し、家庭との共通理解を図っていく。また、教科部会や研修を通して、一人ひとりが高い意識をもって指導に臨むことができるようにする。
	・忘れ物をしないように指導を全体で行っていると思う教師の割合(鳴門ア)	67.9%	65.1%	68.3%			
能動的な授業づくり	・授業で生徒の意見を積極的に取り上げるようにしている教師の割合(学校ア)	92.2%	100%	90.9%	○生徒の主体的・対話的な学びを意識して授業づくりをする教員が増えた。 △生徒は、「挙手しての発表」のみを発言と捉えている傾向があるため、「ペアやグループでの意見交流等」も発言であると認識させ、積極的に意見交流をすることで、自信につなげていく。	・教師による生徒の発言する力や表現する力を高める努力を続けて欲しい。 ・人前で発言することが苦手な生徒に無理をさせると負担になるので、方法等も考えていく。 ・生徒にあった授業も必要である。 ・意見を伝えることを大切にしようとしていることが伝わった。	・少人数グループやペアなど、様々な形で発言や発表の場、機会を設けていく。 ・生徒が自信をもって発言や発表ができるように机間指導等に努める。
	・授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている生徒の割合(鳴門ア)	70.1%	52.3%	46.5%			
成果指標	◇ 自分の進路について考えている生徒の割合(学校ア) ◇ 将来の夢や希望を持っている生徒の割合(鳴門ア) ◇ 生徒会活動・委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合(学校ア)	75.7% 66.7% 85.6%	72.4% 68.5% 85.3%	74.4% 69.3% 83.0%	【総括】 ○3年間を通して系統的な進路学習を行うとともに、自己実現に向けて、学年や個に応じた進路指導を行っていく。 ○多様化する進路に対応できるよう、進路に関する学習および指導の充実と最新の情報を発信していく。 ○今後も、学級活動や生徒会活動において、生徒が自主的・主体的に活動できる場をつくっていく。		
地域等の協力を得たキャリア教育	・人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の割合(鳴門ア)	93.1%	94.2%	95.1%	○本年度、コロナ禍で実施できなかった文化部を中心とした地域との交流活動を徐々に再開することができた。また、積極的に地域の行事にボランティアとして参加する生徒の姿もみられた。今後も、感染防止対策をしつつ、取組を充実させていく。	・地域の学習支援が可能な方々への協力を得る。 ・地域との交流活動は大切であり、将来にも役立つと考える。ぜひとも再開させて欲しい。 ・福生地区の子ども食堂にボランティアとして、生徒の参加を認めてほしい。 ・地域との交流に積極的に取り組んでいることを評価する。	・学校支援ボランティアなど、地域人材の募集と活用を検討していく。 ・出前授業や講師を招いての講話を、オンラインで行う方法を検討していく。
	・地域のいろいろな活動に参加したいと考えている生徒の割合(鳴門ア)	56.4%	60.0%	61.7%			
系統的なキャリア教育	・生徒の進路について、日常的な指導・援助、相談活動を行っている教師の割合(学校ア)	98.3%	97.6%	91.9%	○各学年において取り組んできたことを、キャリアパスポートに蓄積することで、キャリア教育の充実を図ることができた。 △1・2年生についても、自分の進路と向き合い、将来のことを考える機会として、学活や道徳の時間を有効に活用していく。	・進路については、生徒のよいところ見出して、家庭と学校との十分な理解や意見交換が必要である。 ・家庭との連携が大事である。 ・将来を考え、社会の道徳教育やマナー教育を願います。 ・3年間を見据えたキャリア教育の取組を評価する。	・学年に応じた系統的な進路学習(職業調べ等)の充実を図る。 ・キャリア教育の一環として、職場体験学習の再開に向け、準備を進めていく。
	・自分の進路について考えている生徒の割合(学校ア)	75.7%	72.4%	74.4%			
キャリア教育 生徒会活動等の充実	・生徒会や委員会活動、係活動に積極的に取り組んでいると考えている教師の割合(学校ア)	86.7%	93.0%	86.0%	○ピンクシャツ運動など、いじめ防止に向けて、全校が参加しやすい取組を行った。 △本年度、校外の競技場を使用するのが学年別による体育祭ということもあり、準備等、慌たしかった。	・現行の活動を維持し、他方面として地域との交流等を検討して欲しい。 ・ボランティア活動ができる場をつくるよう、地域等に依頼している。また、事故防止の活動を地域と連携して行う。 ・ピンクシャツ運動、よく目立ちます。評価する。	・ピンクシャツ運動など、生徒会からの発信による活動を実施することができた。 ・各委員の活動内容を充実させて、より
	・ボランティア活動に参加したいと考えている生徒の割合(学校ア)	49.3%	52.0%	57.0%			
進路学習の充実	・将来の進路や職業などについて適切に指導していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	72.4%	73.5%	78.1%	○各学年に応じて、職業調べや上級学校調べなど、計画的な進路学習・進路指導を行うことができた。 △県立高校のWeb出願をはじめ、進路に係わる最新の情報を生徒や保護者に発信していく必要がある。	・現状を家庭に発信し、理解と協力を得ることが必要である。 ・家庭との連携が大切である。よく発信されている。 ・中学校入学時より、進路の情報を積極的に提供する。 ・塾からの情報が早いいため、塾にいかなくてはと思っている保護者もいる。生徒の心情にも配慮してほしい。 ・計画的に進路指導を行っていることがわかった。	・各学年に応じた進路学習、進路指導の充実を図り、学習の成果を家庭に発信できるようにする。 ・進路に関する情報を発信していく。
	・進路についての情報を適切に発信していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	66.4%	69.6%	70.1%			
職場体験学習の充実	・職場体験を充実して終えることができた生徒の割合(別途ア)	*	*	*	* 職場体験学習実施に向けて準備を進めてきたが、コロナの感染拡大の状況を受けて中止となった。代替として地域の方を講師に招き、働く意義や社会に出たときに必要な資質や礼儀、将来に向けて今すべきこと等、職業にかかわる講話を実施する予定である。(2月中旬実施予定)	・大切なことなので、継続、実施して欲しい。 ・今後(コロナ収束後)は積極的に取り組んでいく。 ・コロナに対する対応が変わることで、より充実していきと感じた。 ・生徒にとって大切な取組なので、コロナの状況をみながら、感染防止対策をしつつ実施して欲しい。	・いろいろな立場の大人から、働く意義や生き方を学ぶ機会は大切である。来年度は、職業体験の再開に向け、受入れ事業所の確保等を含め、年度当初から準備を進めていく。
	・進路や将来について考える機会になったと捉えている生徒の割合(別途ア)	*	*	*			

令和4年度 学校自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立白子中学校						NO. 2		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	R2実績	R3実績	R4現状	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
成果指標	◇ 自分には良いところがあると思っている生徒の割合(鳴門ア) ◇ 人権学習で学んだことが日常生活で行動できていると考えている生徒の割合(学校ア)	64.3%	68.9%	68.9%	【総括】 ○学級活動や生徒会活動、学校行事など、生徒が活躍できる場が増えつつあることで、生徒の自己肯定感や自己有用感が高まってきている。今後も、お互いを認め合い、生徒一人ひとりが安心して生活することができる学級集団、学年集団づくりに取り組んでいく。 ○様々な人権課題に対して、生徒の実態に応じて系統的な人権教育や道徳教育に取り組んでいくとともに、保護者や地域への啓発も行っていく。			
生徒指導	組織的な生徒指導体制の充実	・生徒をよくしようという意識や意欲が高いと考えている教師の割合(鳴門ア)	96.3%	95.2%	87.8%	○大規模校であるため、学年間や教師間で指導の差が生まれないように、各学年の生徒指導担当教員を中心に、情報共有や意思疎通を大切に、連携を図ることができた。 △保護者からの相談や要望など、内容によっては対応に苦労することが多かった。今後も丁寧に対応していく。	・地域組織(まちづくり協議会や自治会)等の協力は不可欠である。 ・根気よく保護者とのやり取りをする。経験のある先生を活用するとよいのではないかと考える。 ・いじめが要因なのか、自身の失望感なのかかわからないが、この時、保護者がそのまま受け入れ、無理をせず見守り続けてよい状態となった。家庭との連携がよくなった。 ・大規模校ですが、先生方の努力が伝わってきます。	・保護者の思いも受け入れつつ、必ず学校の思いも伝えていけるように、日頃から家庭との連携をしっかりしておく。 ・社会情勢に合わせた校則の見直しを、生徒主体で行ってきたい。
		・いじめや暴力等の問題に適切に対応していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	83.2%	85.1%	83.5%			
人権教育	仲間づくり・集団づくりの取組	・計画的に人権学習に取り組んでいると考えている教師の割合(学校ア)	88.5%	85.8%	84.0%	○各学年の人権教育担当による部会を定期的に行い、人権学習の取組を共有するとともに、3年間を見据えて計画的に人権学習に取り組むことができた。 △人権カリキュラムを見直し、目の前の生徒の実態に合わせた人権課題や教材を活用した人権教育を進めていく。	・お互いの考え方の相違による行き違い等の例をあげ、尊重する方法を指導していく。 ・人権教育については、まず家庭が大切である。保護者も含めた人権教育を実施してみようか。 ・人権教育は継続していくことが大切だと思っているので、学校が全学年を通して行っていると感じます。	・全職員が人権カリキュラムを共通理解し、3年間を見据え、計画的に人権教育に取り組んでいく。 ・人権学習の取組を、通信等を活用して、保護者へも発信、啓発していく。
		・人に対する思いやりが大切にされていると考えている生徒の割合(鳴門ア)	84.6%	85.8%	83.6%			
不登校対策	初期支援体制の充実	・集団づくりや学級経営への工夫改善を組織的に行っていると考える教師の割合(鳴門ア)	96.2%	88.4%	80.0%	○不登校対策支援員やスクールカウンセラー等との連携を図り、生徒支援部会において情報共有をするとともに、様々な課題を抱える生徒に対して、組織的に対応することができた。 △不登校生徒を減らすために、丁寧な初期対応や保護者との連携をさらに深めることが肝要である。	・スクールカウンセラーを活用する。 ・根気よく教師と保護者が連携し、それぞれの生徒に対応する。地域の人材を活用してみようか。 ・保護者が出入りしやすい学校にすべき。もっと門を開いてほしい。 ・不登校については、中学校に入学してからの場合は支援が来てくれるでしょうが、小学校との連携が必要である。	・様々な課題を抱え、それぞれに支援が必要な生徒に対して、担任だけでなく、関係機関等との連携をはじめ、組織的に対応していく。 ・不登校生徒を減らすため、今後も保護者との連携を密にして取り組んでいく。
		・生徒が基本的な生活習慣を定着させるよう、指導していると捉えている保護者の割合(鳴門ア)	87.8%	89.9%	88.4%			
特別支援教	教職員の資質向上	・配慮を要する生徒への工夫改善を組織的に行っていると考える教師の割合(鳴門ア)	100%	95.2%	92.7%	○生徒支援部会を中心に、支援を必要とする生徒の情報共有と具体的な支援の在り方について検討するとともに、外部機関との連携を図りながら、個々の生徒に対応することができた。 △支援を必要とする生徒の増加にともない、個に応じた支援の在り方について、校内の支援体制の充実を図る必要がある。	・現状を継続して欲しい。課題である特別支援教育についての研修会等を実施してはどうか。 ・先生の教育はよい。 ・支援が必要な生徒が年々増えている中、先生方のかかわりを評価する。	・特別支援教育への理解を深め、実践力を身につけるために、講師を招聘した校内研修を実施する。 ・見守りたい生徒を中心とした学級集団づくりや授業づくりを継続していく。
		・個々の生徒のレベルに応じた教え方をしていると考えている保護者の割合(鳴門ア)	60.0%	61.9%	58.7%			
道徳	道徳に関する研修の実施	・生徒同士が互いに認め合うことができていると考えている教師の割合(鳴門ア)	81.1%	81.4%	75.0%	○ICT機器を効果的に活用するとともに、生徒が主体的に考え、実践できるように、題材や発問等を工夫しながら授業を行った。その結果、生徒のいじめや差別に対する意識も高まっている。 △言語活動や多様な表現活動を通じて、生徒に考えさせる授業を構想していく。また、評価についても検討していく。	・道徳教育の意味を理解してもらおう。 ・道徳は難しい。今と昔の教育方針(道徳)が違うと思う。 ・若手教員には道徳の基本、根本を学んでほしい。 ・昔と違うSNS等によるいじめなど、対応が大変だと思うが、学校が発信することで生徒の気づきになっている。	・生徒の実態にあわせて、題材や発問等、工夫しながら道徳の授業を行うとともに、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行っていく。 ・ICTの活用や評価等、研修を深める。
		・いじめや差別をしない強い気持ちを持っていると考えている生徒の割合(学校ア)	95.3%	94.9%	95.5%			
生徒支援	主体的な学習活動の実施	・自分のことに自信が持てるよう教え方を工夫していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	78.7%	80.9%	78.3%	○感染防止対策をしつつ、各教科の学習において、ペア・グループ学習や班活動など、対話形式の学習に取り組んだ。 △各クラスの視点生徒や要支援生徒が、自分を出せる活動や体験のカリキュラムづくりが必要である。	・生徒からの発信や発言しやすい環境づくりに努める。 ・「自分もやればできる」という思いを持っている生徒が増えていくことはよいことである。 ・親子の話し合いも大切である。そのための具体的な取組等に関する資料があるとよい。 ・グループなど、対話形式の学習の取組を評価する。	・各教科の学習において、生徒が主体的に取り組める教材や学習場面を設定する。 ・学級活動等の場面で、承認活動をもっと積極的に取り組めるようにする。
		・自分もやればできるという思いを持っている生徒の割合(鳴門ア)	76.6%	80.8%	80.7%			
成果指標	◇ 学校が教育課題の改善に取り組んでいると捉えている保護者の割合(学校ア) ◇ 教育方針をわかりやすく伝えていくと捉えている保護者の割合(鳴門ア) ◇ 学校が身近に感じられている保護者の割合(学校ア)	70.4%	72.4%	73.9%	【総括】 ○様々な教育課題等について、学校と保護者・地域との情報共有や意思疎通を積み重ねていく。 ○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施できなかった学校行事やPTA活動等の精選と再会を検討していく。 ○幼小中の連携を図るために、人権教育推進担当者会等をはじめ、校区の合同研修会や合同学校運営協議会等の取組をさらに充実させていく。			
地域ぐるみの教育	積極的な情報発信	・通信やHPなどで保護者や地域に情報発信できていると考えている教師の割合(学校ア)	88.9%	83.8%	83.6%	○学校通信や学年通信、部活動予定表等を通じて、情報発信を積極的に行うとともに、メール配信も効果的に活用することができた。さらに、端末の活用についても検討していく。 △ホームページがリニューアルされ、保護者の閲覧も増えているので、さらに内容等を充実させていく必要がある。	・HPやメール配信の活用を充実させる。 ・地域への情報発信は大変大事なことである。生徒も活用してさらにPRして欲しい。 ・ホームページがわかりやすく、とても良い。 ・学校の状況が得やすくなった。	・学校や学年の取組については、学校通信や学年通信を発行するとともに、HPへの掲載や地域回覧により、積極的に情報発信を行っていく。 ・メール配信を有効に活用していく。
		・通信やHPなどで情報が提供されていると考えている保護者の割合(鳴門ア)	83.0%	88.7%	81.1%			
	PTAや地域との対話	・保護者が、学校の教育への熱意を感じてくれていると考えている教師の割合(鳴門ア)	83.0%	76.8%	79.6%	○電話連絡や家庭訪問等で、日常的に保護者の声を聴く機会を大切にしながら対応することができた。また、様々な機会を通じて、学校の活動や取組について伝えることを心がけた。 △保護者からの要望や意見に対して、内容によっては学年職員あるいは全職員が共有し、対応していく。	・保護者、地域、学校が、問題点や課題等を情報共有することにより、相互の理解を深める。 ・学校運営協議会だけでなく、学校行事(体育祭や文化祭)等を通じて地域の人と対話して欲しい。 ・多くの家庭への対応を求めている。地域とつながりをもととする姿勢があるように思う。	・PTAや学校運営協議会、地域関係者等との連携を図り、交通安全や家庭学習の定着などの課題に取り組む。 ・学校アンケート等からの保護者の声を大切に、教育活動の充実を図る。
校区幼小中学校園の連携	・校区の小中学校との連携が必要と考えている教師の割合(学校ア)	96.8%	97.7%	98.0%	○本年度、人権教育や不登校対策、算数・数学の部会など、定期的に連携を図るとともに、昨年度に引き続き、幼小中合同研修会や校区合同学校運営協議会を実施することができた。 △今後、さらに幼小中の連携を深めるとともに、児童生徒の実態に応じた継続可能な取組を行っていく。			
・小学校と連携した教育が大切と思っている保護者の割合(学校ア)	84.1%	86.7%	88.8%					
成果指標	◇ 時間外労働時間の対前年度縮減率(学校調査) ◇ 80時間超の過重労働を報告した教職員の割合(学校調査)	▲17.0%	▽2.4%	▽15.3%	【総括】 ○管理職や事務職員、担当職員の共通理解のもと、学校予算等の計画的な執行を検討し、学校施設・設備の修繕や教育環境改善に取り組んでいく。 ○教職員の業務の効率化を進めるとともに、校務分掌や業務内容の見直し等、勤務実態に基づいた具体的な改善策を検討していく。 ○教職員の総勤務時間の縮減について、保護者や地域の理解を求めていく必要がある。			
学校教育環境	学校修繕中長期プラン作成	・学校は施設・設備の充実に努めていると考えている保護者の割合(鳴門ア)	68.5%	71.4%	71.2%	○次年度からの校舎改修に向けて、教職員の要望だけでなく、学校運営協議会においても進捗状況を共有するとともに、意見等をいただきながら準備を進めることができた。 ○老朽化が進む中、校舎内外の施設の修繕やクラブ用品等の購入など、学校内の予算の中でできることに努めている。 △保護者や地域の声を聴く機会を大切に、交通ルールやマナーを守って、安全に登下校できるように、日々の交通指導や安全指導の充実を図る。	・順次、改善案等があれば、早めに意見交換を行うなど、最新の情報を共有し、対応していきたい。 ・校舎改修に向けて、どんどん意見を出していきたい。 ・校舎改修の中での授業のあり方を考える必要がある。 ・改修工事が始まってからの協力関係をどのようにしていくのか、共に考えていけると良いと思う。 ・交通事故ゼロを目指して、日々の交通安全・交通マナーについての指導が必要である。(さらに徹底して) ・生徒の安全のため、学校だけでなく、家庭や地域も共に協力して取り組んでいく必要がある。	・学校予算等の計画的な執行の検討と教育環境整備を進めていく。 ・来年度より始まる校舎改修に向けての準備を進めていくとともに、改修工事の進捗状況等を、保護者や地域(学校運営協議会)に発信していく。 ・交通ルールやマナーについて、交通指導を継続していく。
		・学校が防災や防犯、事故防止によく配慮していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	89.5%	88.7%	88.2%			
総勤務時間の縮減	80時間超の過重労働を報告した教職員の割合(学校調査)	・80時間超の過重労働を報告した教職員の割合(学校調査)	7.6%	4.7%	0.9%	○少しずつではあるが、総勤務時間の縮減や休暇取得に対する意識が高まり、過重労働職員も減少傾向にある。 △教職員一人ひとりの労働状況を捉えていくとともに、校務分掌や業務内容の見直しの取り組んでいく必要がある。	・お疲れさまです。今後も情報提供をお願いします。 ・先生方の仕事の効率を上げるため、学校運営協議会でもできることを議論していきたい。 ・教師の健康が第一である。 ・先生方に負担軽減のため、地域の協力を求めてほしい。	・昨年度より精選や見直しが行われた教育活動については、来年度以降も継続していく。 ・保護者や地域の理解を求めていく。
		・1人当たりの休暇取得日数(学校調査)	13.6日	11.2日	12.1日			